

連携

第81号

栗原市立栗原中央病院
広報誌 令和4年2月発行
編集 地域医療連携室

病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にできる最善の医療を行い、地域に貢献します

基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1. 市民から信頼される、安全な医療を行います
2. 良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3. 地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4. 地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます



新年のご挨拶

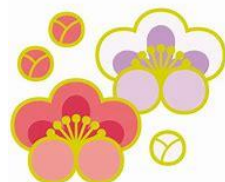
病院長 中鉢 誠司

新年早々オミクロン株の流行で、またコロナの1年が始まった感じです。欧州ではデルタクロンなる変異種の報告もあり、いつまで続くのか先が思いやられますが、やれることをやる以外に方法はないかと思っています。これが発刊するころにはピークアウトしているかもしれませんが、宮城県でも感染者の急増に伴いホテル療養だけではカバーしきれず、自宅療養者が増えることが予想されます。流行拡大地域では保健所の業務も逼迫し濃厚接触者の追跡・PCR検査も難しくなっており、これまで以上に保健所・病院・医師会の協力体制が必要であり、重症化リスクの高い入所者や通所者がいる施設との連携も重要となります。コロナの流行はピンチですが、将来の更なる感染症や災害を考える時に、こうした連携協力体制を築いていけるチャンスではないかと思っています。

今年は診療報酬改定があり、その中で新たに外来機能報告制度があります。現在400床以上もしくは

は地域医療支援病院には、初診患者からの一定金額（5000円以上）の徴収を義務付けられていますが、国は200床以上の病院全てに拡大する事を意図しています。その前にこの報告制度を元に、病院が主に紹介患者を診療する機能を有しているのかを判断し、そうした場合に医療が成り立っていくかをそれぞれの地域で判断して行く事になります。当院では経営改善のためにも地域医療支援病院になる検討が始まっています。しかし紹介状を持たない新患者から一律で5000円以上を徴収するとすれば混乱する事が予想されます。今後、医師会の先生方や市民の方のご意見を伺う必要があると考えています。

高齢化率も40%を超え、今後ますます少子高齢化が進む栗原市で医療・介護をどうしていくのかを皆様と考えていく1年になるかと思っています。今年もどうかよろしくお願いします。



人事異動

○令和4年1月1日付け 採用

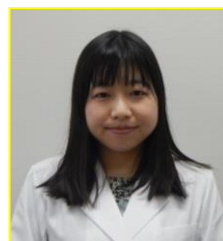


皮膚科副医長
おおくま たかみ

大熊 崇生

丁寧な診療を心掛け、地域医療に貢献していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します

よろしくお願い致します



整形外科医員
さとう のぞみ

佐藤 望

3か月という短い間ではありますが、どうぞよろしくお願い致します

○令和3年9月30日付け 退職

内科医員 齋藤 悠

外科医員 堀江 悠太

○令和3年12月31日付け 退職

循環器内科医長 尾形 剛

研修医2年目 荒木 俊一

○令和3年10月31日付け 退職

研修医2年目 木村 千尋

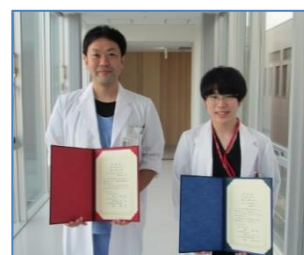
○令和4年1月1日付け 転出

内科医長 吉越 仁美（若柳病院へ）

❖初期研修医プレナリーセッション若手奨励賞&初期研修医指導者賞 受賞❖

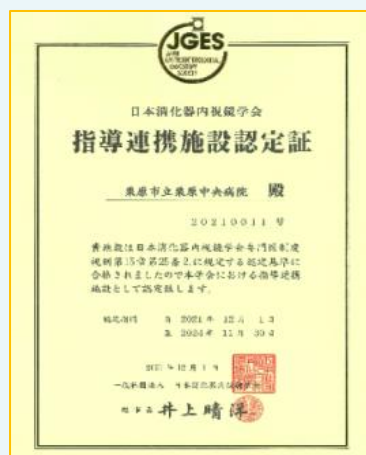
日本内科学会東北支部主催第224回東北地方会(2021.9.18sat WEB開催)において、演題「ウレアーゼ産生菌による尿路感染症で意識障害を呈した1例」を発表した演者の本田亮平研修医が初期研修医プレナリーセッション若手奨励賞、指導者の半田智之先生が初期研修医指導者賞として表彰されました。

日本内科学会ホームページの第224回東北地方会若手奨励賞受賞者のページに受賞者、受賞のコメントが掲載されておりますので、是非ご覧ください。



日本内科学会 第224回東北地方会若手奨励賞受賞者 https://www.naika.or.jp/meeting/tohoku/tohoku_yia/O2_yialist_224/

日本消化器内視鏡学会 指導連携施設認定



予約診療について

当院では**消化器疾患における患者様をご紹介**

いただく場合、FAXによる予約診療とさせて

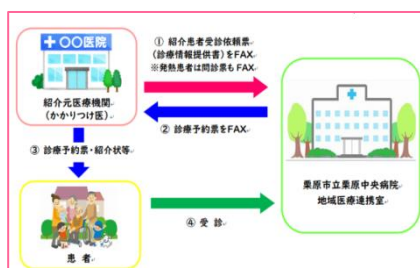
いただいております。診療予約の手順はこれま

でと変更はありませんが、宛名は「**消化器内科担当医**」と記載願

います。また当日の受診が必要な患者さまにつきましても、**診療**

情報提供書のFAXをお願いします。確認後に電話にてお返事致

します。



皆様には大変なご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

栗原版エンディングノート『マイストーリー』完成

ひとの死亡確率は100パーセントだから

ひとは、一度産まれ一度死んでいく。人によって長短はあるが、100パーセントの確率で訪れる。ひとは、縁起でもないということであまり考えないようにしている。死に向かう準備は、病気によりある程度できることもあれば、不慮の事故のようにあっという間に気が付いたら死んでいたということもあるだろう（死んでから気が付くかどうかは不明である）。民間人が宇宙旅行を経験できる時代になっても、「死ぬこと」はたった一度の経験であり、やり直しができない。

さて、当センターは在宅医療を希望する市民が、最後まで自分らしく暮らせるよう在宅医療と介護に関わる専門職者の相談や研修を業務としている。これらの活動から見えるのは、在宅医療・介護のとらえ方は、専門職者と市民とでは温度差があることである。温度差の原因は、在宅医療を含めた医療の選び方などを、市民へわかりやすく情報提供することの不足が挙げられる。また、医療・介護の専門職者が、患者や利用者を生活者として捉えたうえでサービス提供をしているかということである。



そこで、これらへの対応策のひとつとして栗原版エンディングノート『マイストーリー』を作成した。作成にあたっては、作成委員会を設置した。構成員は、主婦、自営業者、消防士、葬祭業者、僧侶の家族、介護支援専門員、高齢者施設職員、看護師など40代から80代の栗原市民15名である。各々の視点から活発な意見交換のもと、『マイストーリー』が完成した。

『マイストーリー』は、いわゆる死に支度としての遺言書ではない。これまでの人生において大切にしてきたことや覚えておきたいこと、そしてこれからどのように暮らしたいかなどを書き留めておくものである。書いたものは、できれば自分にとって大切な人（家族とは限らない）と共有したい。

例えば、高齢者施設職員と利用者であれば、『マイストーリー』を共有することで利用者が何を大切に生きてきたかを知ったうえで関わるができる。利用者にとっても人生の終盤でお世話になる職員が、これまでの自分の人生をも大切にしてくれることは、より一層の安心感や信頼関係を深めることになるだろう。また、医療者と患者であれば、治療の方針を決めるための重要な主軸となるかもしれない。

人生は一度きりである。『マイストーリー』は書くことで自分の人生の大切なものに気づき、大切な人にバトンを渡す機会になるだろう。

医療者や介護職者の皆さん、まずは自分自身の『マイストーリー』を書いてみませんか。

栗原市在宅医療・介護連携支援センター 所長 千葉 由美子



書いてみよう！これまでのこと これからのこと

エンディングノート講座

栗原版エンディングノート『マイストーリー』無料配布

うれしかったことも つらかったことも
私の人生の大切なひととこま

振り返るとほめてあげたい自分がある 動みたい自分もいる
さて これから先の人生は どちらに歩いて行こうかな

あなたにも知っていてほしいから 記しておこう
『マイストーリー』は 大切なあなたへの贈りもの

あなたのこれまでの人生とこれからの生き方について
エンディングノートで大切な人に伝えてみませんか

【エンディングノート講座の申し込み方法】
ご家族、ご友人、ご近所など二人以上でお申し込みください
連絡先は栗原市在宅医療・介護連携支援センター
➤ 電話：0228-21-5357 メール：zaitaku@kam.or.jp
➤ 月曜から金曜の午前9時～午後4時に受け付けます

『マイストーリー』をご入用の方は30分程度のエンディングノート講座を受講しましょう。
その後『マイストーリー』を配布いたします。

栗原市立栗原中央病院 感染対策研修会 報告

令和3年11月18日(木)栗原市立栗原中央病院講義室において、感染制御センター長 平瀬洋一先生を講師とし「医療従事者が知っておきたい結核の基本と感染対策」をテーマに感染対策研修会を開催しました。今回初めてハイブリット方式を取り入れ、会場参加者は院外より3名、院内31名。Zoom視聴131件(申込数198名)と多くの皆様に参加していただきました。



肺結核の基本的な治療方法、検査方法など症例を交えながら講話を頂きました。またマスク(市販も含む)の性能やフィットテストの結果など実生活につながる内容もあり、とても勉強になりました。

アンケート結果からは「結核の診断、治療について基本から学ぶことが出来た」「日本のマスクの規格について、感染対策に役立つ情報があり有意義だった」等の意見が聞かれ、内容については「非常に良かった・良かった」と答えたのは93.8% 今後の仕事に活かせると感じたかについては「非常に感じた・感じた」と100%が回答されていました。



Zoom視聴では「音声が低く聞こえづかった・雑音が聞こえる」などの意見も聞かれましたので、今後は開催方式等も検討しながら、医療従事者の業務に活かせる研修会を実施していきたいと思います。

お詫びと訂正

広報誌「連携」第80号の診療状況報告(上半期)において、救急患者数の合計数が誤った数となっております。正しくは以下の通りとなります。

◎救急医療状況()内及び時間内患者数は救急車搬入数

(単位:人)

区 分	外 来		入 院		時間外計	時間内計	救急車搬入計
	時間外	時間内	時間外	時間内			
4月	283 (60)	27	118 (74)	41	401 (134)	68	202
5月	365 (64)	22	112 (72)	35	477 (136)	57	193
6月	290 (77)	28	81 (55)	33	371 (132)	61	193
7月	418 (89)	30	110 (58)	42	528 (147)	72	219
8月	384 (76)	24	95 (45)	45	479 (121)	69	190
9月	293 (72)	20	94 (50)	43	387 (122)	63	185
合 計	2033 (438)	151	610 (354)	239	2643 (792)	390	1182

編集後記

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。年明け早々、各地で「まん防」が発令され、穏やかな一年の始まりとは言えない状況ですね。社会情勢を考慮しながら「今、できること」を精一杯頑張っていきましょう。

栗原市立栗原中央病院

〒987-2205 宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1
 (代表) TEL: 0228-21-5330 FAX: 0228-21-5350
 地域医療連携室
 (直通) TEL: 0228-21-5335 FAX: 0228-21-5336
<http://www.kurihara-central-hp.jp/>